

IS09001 による誤薬防止の効果

○浅田弥穂 原 理恵 柳田 勝 川田 晃

大阪府 渡辺第二病院

I はじめに

現在、医療機関において医療事故の防止、削減は急務であり、その中でも誤薬は重大な事故を引き起こす原因となる。今回、誤薬防止の対策に IS09001 を適用したところ、誤薬減少に効果が見られたので若干の考察を加え報告する。

II 原因分析

誤薬の原因として内服薬においては、人物間違い、与薬忘れ、同一患者への重複投与、薬局の調剤誤り、医師による記入間違い、トレイにおける与薬準備ミス、中止薬剤の継続投与、投与時間の間違い、薬剤の種類間違い、禁忌薬の投与などがあつた。また、注射薬はインスリン注射の関連したものとそれ以外の点滴に関連した件数を算定した。

III 対策

①処方薬剤種類数の整理・単純化 ②薬剤準備トレイの拡大化 ③医師の指示受け担当を固定化 ④カルテ用指示棒の採用 ⑤採用薬に関する知識の確認テスト実施 ⑥配薬トレイに顔写真設置（認知症） ⑦注射薬の準備場所の確保 ⑧処方に時間帯によって色による識別 ⑨病棟クランク配置 ⑩復唱の徹底 ⑪誤薬防止手順掲示 ⑫コンピュータ管理による完全自動調剤機など 10 種類以上の改善策を実施した。

IV 結果

内服薬の誤薬件数は、平成 14 年度、平成 15 年度、平成 16 年の認証前、認証後と比較すると認証後に件数の減少傾向が見られた。注射薬においても、認証後に減少傾向が見られた。それぞれの原因においても、人物間違い、調剤間違い、処方記載間違い、投与時間の間違いが減少した。点滴関連の誤薬も減少が見られた。

VI 考察

以上の結果から誤薬防止に IS09001 のマネジメントシステムが有用であるとおもわれた。今後も引き続き誤薬防止に IS09001 を利用していきたい。